

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

上川管内 東神楽町立東神楽小学校

本実践のポイント（概要）

- ・児童のふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間に、アイヌの人たちの歴史や文化等について調べるとともに、修学旅行におけるウポポイの見学等を通して、一人一人の課題解決に向けて学びを広げたり深めたりするなど、探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

「アイヌの人たちと自分との距離」について考える活動やアイヌの人たちの暮らしについて調べる活動を通して、アイヌの人たちの歴史や文化等について理解するとともに、一人一人が相手意識や目的意識を明確にしなが課題解決に向けて考え、アイヌの人たちの歴史や文化等についての学習に主体的に取り組むことができるようにする。

取組の様子

(1) 課題の設定

単元の導入で、東神楽町教育委員会の指導主事を講師に迎え、「アイヌの人たちと自分との距離」をテーマに授業を行いました。自分との距離が近い（遠い）理由を交流する中で、本単元を通して追究していく課題を設定しました。

(2) 情報の収集

1人1台端末を活用し、インターネットや参考資料を基に、情報収集を進めました。その後、修学旅行でウポポイを訪問し、チセや展示資料の見学を通して、アイヌの人たちの暮らしを肌で感じました。

(3) 整理・分析

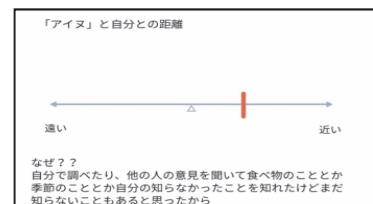
ロイロノートの思考ツールを活用し、集めた情報を整理するとともに、交流を通して、アイヌの人たちの歴史や文化等について理解を深めました。

(4) まとめ・表現

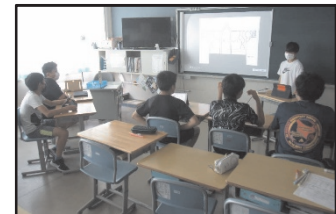
児童一人一人が表現したい方法を選択し発表を行いました。その際、相手意識（学級の友達）と目的意識（友達との考え方の比較）を明確にして発表したり聞いたりすることで、自分の考えをより深めることができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・「アイヌの人たちと自分との距離」を基にした課題設定を行い、児童一人一人の思いを大切に学習を進めるとともに、児童が発表や方法を選択し、発表内容をまとめました。
- ・発表では、自分が聞きたいテーマの発表者を選ぶとともに、発表後の質疑応答を踏まえて各自のまとめを修正するなど、自分の学びと他者の気づきを生かしたまとめを行いました。



【アイヌの人たちと自分との距離を表す図】



【1人1台端末での交流の様子】

実践の振り返り

- ・「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用するとともに、児童一人一人の課題意識を大切に学習した探究的な学びのプロセスを充実させたことにより、学習後のアンケート調査では「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と回答した児童の割合が85%から93%に、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、まとめて調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童の割合が88%から100%に増加しました。
- ・各教科等との関連を図った教育課程を編成することにより、アイヌの人たちの歴史や文化等に関する興味・関心をより一層高めることが期待できます。